

つくば市記者会 御中

発信日：令和2年（2020年）9月30日（水）

発信元：つくば市 建設部 道路管理課

☐取材依頼 ☒周知依頼 ☐募集告知 ☐その他

市内の街路樹における 「ナラ枯れ」の確認について



つくば市松代地区の街路樹において、ナラ類（コナラ・クヌギなど）の樹木が枯死する、通称「ナラ枯れ」の発生が確認されました。

「ナラ枯れ」とは、森林病害虫であるカシノナガキクイムシ（以降カシナガと呼ぶ）が病原菌である「ナラ菌」を伝播することで起こる樹木の伝染病です。

【症状】

- ・カシナガが媒介するナラ菌により、辺材部の通水機能を失い、紅葉前の7月から8月頃、急速に葉の色が赤褐色に変色し、枯死します。

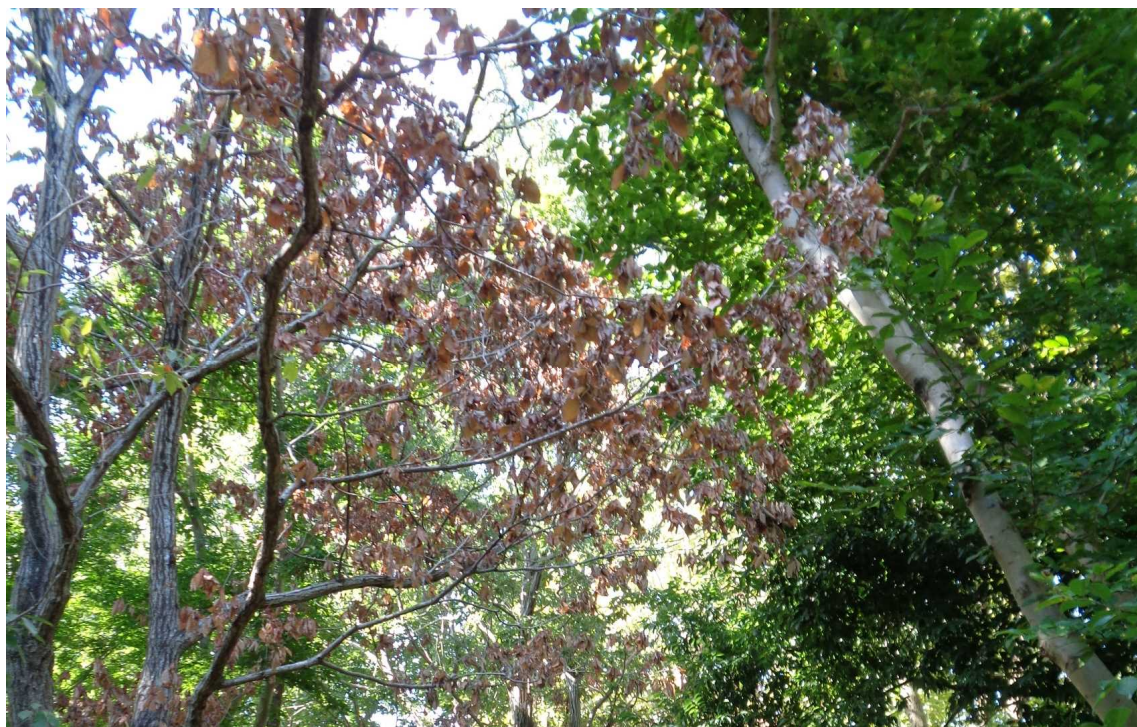
【発生状況】

- ・8月28日（金）松代地区のコナラに、カシナガが入り込み樹木が枯死している可能性がある、茨城県から連絡が入る。
- ・9月8日（火）つくば市が伐採した検体を森林総合研究所へ受渡し、調査を実施した。
- ・9月9日（水）検体からカシナガの成虫、幼虫が確認された。
- ・9月25日（金）検体の菌を分離・培養した結果、コナラなどを枯らす「ナラ枯れ」の病原菌である「ナラ菌」が検出された。この結果が書かれた調査報告書を、つくば市が受理した。

【今後の対応】

- ・職員により、現地付近での被害木と同様の街路樹の目視確認を行います。
- ・市の関係部署間と連携を図り、情報共有を行い、監視体制の強化を図っていきます。
- ・街路樹の確認後、症状が確認された場合、県や樹木医に相談し、被害木があった際は、（一社）日本森林技術協会発行の被害対策マニュアルに沿って対応をします。

別紙 「ナラ枯れ」の状況写真



コナラの被害木（8月撮影）
紅葉前に葉の色が変色



カシナガの穿入孔
(直径約1.5mm～2.0mm)